

寒さがいつまでも居座っているようですが、それでも高校野球が終盤になり、コブシが咲き、桜の蕾がふくらみはじまりました。いよいよ春だと思つくとワクワクしませんか。

お知らせ

- ・建物の保存を考える in Tokyo 4月7日(土) 横浜旧居留地
- ・アメニティ・アカデミー「ヴォーリズ建築再見」開講 4月14日(土) (すでに定員に達しました)
- ・和のこもの展 4月25日(水) 26日(木) 草志舎
- ・チャリティ・オープンガーデン 5月19日(土) 正司邸
- ・コウノトリの郷との交流 5月26日(土) 豊岡
- ・2012年度総会 6月2日(土) 草志舎
- ・英国ナショナル・トラストの旅 6月10日～19日 スコットランド

予告1

チャリティ・オープンガーデン～正司邸の花を楽しむ

宝塚市雲雀丘にある正司邸の庭を有料で公開し、花とお茶と音楽を楽しんでいただき、収益をアメニティ 2000 協会に寄付いただくというチャリティ・オープンガーデンを今年も催します。会員の正司泰一郎さんのお宅は国登録文化財でひょうごの近代住宅 100 選にも選ばれているすばらしい洋館です。庭からは大阪平野が見晴らされ、正司さん自らが手入れされているバラ園、キッチンガーデンなどがひろがり、楽しいひと時となるでしょう。どうぞお友達とお誘いあわせてご参加ください。

日時 2012年5月19日(土) 午後1時半より

場所 正司邸(宝塚市雲雀丘2丁目5-22)

参加費 1,000円(お茶とクッキーつき)

チケットは事務局にありますので、ご希望の方はご連絡ください。

また当日協会は受付と飲み物コーナーを担当します。こちらのスタッフも募集しています。よろしくお願いいたします。



ご報告 町並み研究会 3月10日(土) 大阪市・住吉、阿倍野地区

大変充実した半日でした。住吉大社では由緒から現代社会での役割まで話題の豊富な解説をしていただきました。池田味噌店のご主人は訥々とした話しぶりで古い建物への愛着と保存の苦心を語ってくれました。現実に住んでおられる自宅の中まで見せてくださった高谷邸のステンドグラスは海をテーマにしたすばらしいデザインで、奥様に丁寧にご案内していただきました。寺西さんは所有の長屋を壊さずに活用する道を選んだ苦労をユーモアにくるんで話されました。堂々たる日本家屋、しゃれた洋館、和風の長屋、洋風の長屋と戦前の日本の建築の見本市のような地域です。周到な準備をしてくださった企画担当の澤さん、運営にあたった皆さんに感謝です。



寺西家住宅にて↑

予告2

和のこもの展

毎年大人気の行事がやってきます。あしやクローバーの手作りこものが並ぶ楽しい会です。着物地を使った袋物やタペストリー、アクセサリー、カード、押し花の作品と、いずれも色使い、デザインのおしゃれな品々です。お知り合いをお誘いのうえ、ぜひおいでください。また協会は喫茶としてお昼ごはんとお茶を担当します。こちらのスタッフも募集しています。

日時 2012年4月25日(水) 26日(木) 午前11時～午後3時

場所 草志舎

ヴォーリズ六甲山荘では、設計上心にくい配慮がみられます。それをご紹介しましょう。まず第一は、来客に対する配慮です。「お出迎えする」という基本的な姿勢が、玄関扉の形態に表れています。皆さんの家で扉がある場合、外側に引くようになっていませんか。ヴォーリズ建築では、逆に内側に引くのが鉄則になっています。それは家人が自ら扉を手前に開けて、「ご遠方を良くお越しいただきました」と来客を暖かく出迎えるという発想なのです。旧小寺家別荘の時代、家人は決して玄関から入ることはなかったそうです。そのため、北側のテラスからの出入り口が勝手口を使用するのを慣行とされていました。小寺家は、ヴォーリズの考えを良く理解し継承されていたことが分かります。また玄関入り口には、腰掛椅子があります。そこで靴を脱いだり履いたりする時に座っていただくためのものです。家の中では靴を脱いで過ごすという日本仕様の建物のために設置され、ここにも心遣いをみることができます。当時千客万来だった訪問者の山荘ライフを堪能させるための玄関となりました。

第二には、住人に対する配慮です。特に家事に関する手当に成るほどと言わせる工夫があるのです。この山荘の建築様式は、装飾的デザインを極力削ぎ落とし素朴な空間を引き出すことを心掛けています。ところが、目の届きにくい場所にさりげなく機能的な装飾がなされているのです。室内の壁の最下部に床に接する所に化粧のために用いる横板のことを巾木（はばぎ）と言います。ホールには一面に貼られていますが、その形は中心を丸く曲線に挟り板壁と床の直角部分をカーブさせるように嵌め込まれています。この巾木は柔らかな雰囲気をもたらすだけでなく、家人にとって掃除がしやすいという効果を狙ったものです。さりげない箇所に労力を掛けている例で、当時ノミ等による手作業であったため大工さん泣かせだったことでしょう。更には見学者にとって興味をそそるものがあります。厨房の向かいにある和室は、本宅から家人と一緒に来たお手伝いさんが寝泊まりする部屋として使用されていました。その中央の壁に二段扉があるのですが、多くの方は仏壇とか物入れ等を想像します。さにあらんや開扉すると備え付けのアイロン台が出てくるのです。それは洋式に立った状態のまま作業ができる位置に設置されるよう仕組まれています。作業員にとって実に働きやすいように設計されているのです。そしてこの和室には掘り炬燵があり、子供たちとお手伝いさんが共になって遊んだそうで、柱には背丈を測った記しに子供たちの名前が残され、ほほえましい様子が浮かんできます。

このように、山荘は全ての人への思いやる心をもった設計と温もりのある生活に満ち溢れていたのです。是非あなたの眼で新しい発見をしてください。

予告3**2012年度総会**

今年度の総会を次のように開催します。

日時 **2012年6月2日（土）午前10時半**

場所 草志舎（阪急西宮北口駅より徒歩3分）

総会終了後、会員の交流会を開きます。こちらにもぜひご参加ください。

予告4**コウノトリの郷との交流**

今年もコウノトリの郷、豊岡へ田植え体験にでかけましょう。豊岡ではコウノトリを自然にかえすために低農薬・有機栽培を行っています。その田んぼでとれる米はとても美味しく、私たちもコウノトリの郷の米として頒布をしています。そのおいしいお米の田植えをしに行きましょう。詳細は来月号でご案内します。

月日 2012年5月26日（土）

参加費 1,500円

＜お薦めの本＞**三浦 しおん著 「舟を編む」**

幸田 明子

辞書が作られていく過程の話である。辞書の名は「大渡海」、「辞書は言葉の海を渡る舟」、その舟を編むのだという。舞台は辞書編集部。「犬」に「そこに居るのに、いぬ」、「官警の犬」、「犬死」、「しま」と聞けば「島」「縞」「志摩」「よこしま、さかしまのしま」、仏教用語の「四魔」などと、言葉に異様なほどの感性を持つ人たち。言語学者松本先生、荒木、馬締（まじめ）氏を中心に実に15年を掛けて「大渡海」を完成させるまでの奮闘ぶりが描かれる。

まず自分がこれと思った語は「用例採集カード」なるもの書き記し、資料室に保管する。そして後日検討していく。彼らは常にカードを肌身離さず持って採集に励む。誰かとの会話後にもこのカードが登場する。一見ただけでは無機質な言葉の羅列に見えても、膨大な数の見出しや語釈や作例はすべて考えに考え抜いて書かれたもの。

例えば「西行」について執筆者が書いた「泣いてすがる子を振り切り出家」はいろいろ突っ込みながら無駄な言葉や執筆者の主観はいらないとぼさりと削除。それに加え人名以外の「不死身」という意味を加える。

辞書への執念は紙質にも拘る。ぬくもりのある色、薄い紙を作るべく研究していく。これは聖書や薬の効能書きの紙にも利用されていく。しかし馬締氏が指摘したのは「ぬめり感」、紙同士がくっつくこと無くかつ指に吸い付くようにページがめくれるようにと。それに対して印刷所も模索しながら、よいものを作り出していく。素晴らしい技術である。

このように地道な作業を黙々とこなすこれらの登場人物の私生活はというと心を揺さぶる愛、悲哀、諦観など人間味豊かなもの。馬締氏の真面目すぎる「謹啓 吹く風に冬將軍の訪れ間近なるを感じる今日このごろですが、ますますご清栄のことと存じます・・・」で始まるラブレターは先輩にバカにされながらも見事彼女の心を射止める。謹厳実直な文の中に、彼女が彼の思いを読み取ったのでしょうか。

ともかく本書によって 辞書を見る目が違ってくることを請け合います。（光文社）

＜次回は堀川正子さんをお願いします＞

六甲山荘の手作り案内板ができました

六甲山荘の道路に面した石積みの上に「ヴォーリズ六甲山荘」と墨書された立派な案内板ができました。記念碑台からやってくる人達が、この道でいいのかしらと不安に感じられるところに、ちょうど目にはいる案内です。

譲っていただいた板を木工作家の笹倉徹さん（2010年に六甲山荘で作品展をされました）が磨きをかけ、会員の山崎富美子さんが筆をふるってくださいました。それに会員の増田瑞生さんが杉板の小屋根をつけて、立派に完成しました。

次に六甲山荘に来られる時はぜひその出来栄をご覧ください。



六甲山荘たより

ガイド研修と公開準備をしました

4月1日（日）からの公開をひかえて、3月30日（金）31日（土）に公開準備とガイド研修を行いました。大勢の方が参加して、初日は主に庭や道路の落ち葉掃き、整理、樋の掃除など外回りの作業。2日目は雨だったので屋内の大掃除と設営をしました。壁の雑巾がけは力のある男性ががんばってくれて、ピカピカになりました。野外におくイス・テーブルもセットしました。暖炉にも火をいれて煙突の試運転です。大人数での作業はおおいにはかどり、公開準備ができました。



↑ガイド研修

◇◆◇おしゃべリアラカルト◆◇◇

歩いた！知った！！驚いた！！ 半世紀前に神戸で生まれ半世紀の間神戸で育った私の反省記

峯 雅恵

わずかに陽も射すけれど時折雪の舞い散る寒い2月中旬。第11回・歴史的建築物研究会「神戸・旧居留地を訪ねる」に参加しました。この研究会のお知らせをいただいて、いつもなんとなく歩いている神戸の街の事を少しでも知る事が出来たらいいなという軽い気持ちで参加申し込みをしたのでした。

神戸で生まれ育った私にとって今回歩いた街は子供時代に母に連れられ、ちょっとよそゆきの服を着せてもらい帽子をかぶって出かけた何となく晴れがましいところでもありました。それから成長し社会人としても数年間毎日通った街です。

その軽～い気持ちが 前のめりに「へえ～っ?! 知らなかった～」と変化したのはボランティアのガイドの方から今回のコースの最初の訪問場所の東遊園地の説明を受けたときでした。まずそこでは、旧居留地がここ神戸の地に設置された訳等 旧居留地の全体像を説明してくださいました。フラワーロードが川だったこと。旧居留地が砂地の畑だったことなどなど驚くことばかり。それからは寒さも忘れ ガイドの方のお話を聞き逃すまいと体全体を耳にして一つひとつの訪問先を興味津々で見せていただきました。

この日の最後から4番目の訪問先が「戦没した船と海員の資料館」でした。この建物の存在は知っていましたが初めて足を踏み入れた建物でした。知らなかった。驚きました。こんなに多くの船がそしてこんなに多くの犠牲者がおられたことを・・・資料館でいただいたパンフレットの表紙に「日本は周りを海に囲まれた国です。その上資源の少ない国土ですので、食料品から石油燃料、鉄の原料など、様々な物資を外国から輸入して経済を維持しています。—中略—世界の多くの国と戦った第二次世界大戦は、こうした認識を忘れた無謀な戦争だったのです。—中略—あの戦争は何のためのものだったのか、そういった反省をこめて平和について考える場所となっています。」という館長さんの言葉がありました。ここまではなんとなく浮き足だった気分が一気に引き締まった気がしました。

今回、ガイドの方に色々説明していただき、やはり神戸は港があつて栄えてきた街だという事をあたりまえのことながら再確認しました。父方の祖父が神戸港で水先案内人として勤めていたこともあり漠然と港や海への憧憬が私にはあります。今も海を走る船を見ると祖父のことを思い出します。94歳で亡くなるまで、背筋がまっすぐのびた帽子が似合うおしゃれな祖父でした。もっとも祖父に神戸や世界の港の話、そして戦没船の話聞いておけば良かった・・・とこの日ほど思ったことはありませんでした。その息子である父は海の男とは違

う道を選んだけれど80歳を過ぎた今もかくしゃくとしてくれています。そんな神戸っ子の大先輩の父と神戸の街を祖父の想い出話をしながら歩きたいと思いました。そして今回一緒に神戸の街を回った方のお父様が、神戸港の水先案内人をされていたと聞きなんと奇遇な事があるものと思いました。こういう方との出会いも色々なユニークな方が会員であるアメニティ2000協会の醍醐味と感じました。

全コースで36箇所の最後の訪問先の市営地下鉄「みなと元町駅」を設計した辰野金吾氏が主人の佐賀県唐津市の高校の大先輩であることがわかり、神戸の話題にかたよりがちなこの日の食卓の話題に花を添えてくれました。

軽い気持ちで参加した今回の研究会。思いがけず多くの事を気づかせてくれました。でもまだほんの入り口のようなのですが・・・資料等準備してくださった清水理

事長ご夫妻、スタッフの方達、そしてガイドボランティアの方にこの場を借りてお礼申し上げます。



←旧横浜正金銀行

旧居留地探訪で訪れたチャータードビルに、この4月に「1」としてオープンしました。これはギャラリー、カフェ、アトリエ、コワーキングスペースのある空間です。NPOを中心に若手のアーティストたちが集まって活動している場所です。立ち寄ってみませんか。

<事務局スタッフから一言> 市川武さん

事務局は毎週水曜日の午後に関局しております。私は事務局の最古参としてはや6年半に(これで最古参です)なりました。

JJこと事務長順子(略してJJ)さんが一人でキリキリ舞いしている姿を見て、少しでも応援できたらと思って、今日まで続けています。

私の担当は毎月会員向けに発行されるアメニティ便りを発送する係です。また毎年発行されるアメニティ・レポートの作成のお手伝いと発送を行っています。それと月に一度は六甲山荘でガイドも担当しています。顔を見たら声を掛けてください。



ワーキングホリデー企画委員募集

この夏ヴォーリズ六甲山荘に東日本大震災の被災者学生を招いてワーキングホリデーを開催します。2010年度におこなったホリデーの国内版です。被災者とボランティアの学生数名ずつが山荘に宿泊して、一緒に作業したり楽しんだりする企画です。この活動の企画を担当する方々を募集しています。活動の内容をあれこれと考え実行に移す、やりがいのある仕事です。

企画委員をしてみようと思われる方はご連絡ください。

募金のご報告~~2月に次の方々から募金をいただきました。ありがとうございました。(敬称略)

***六甲山荘ナショナル・トラスト募金**

《2月合計 20,000円 2011年度累計 896,729円》

***教育募金**

《2月合計 5,000円 2011年度累計 90,000円》

***震災募金**

《2月合計 0円、2011年度累計 173,788円》

一般寄付を合せて 2011年度寄付金総額
1,529,060円

この花の名前は?

ヴォーリズ六甲山荘の庭にく群をなして咲くもの、ひっそり隠れて咲くもの、ご紹介しましょう。



この写真の花はバイカオウレン。なごり雪のなかにはなげに花をつけました。<キンポウゲ科>